

## 仕事納めあいさつ

---

平成20年の仕事納めに当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

職員の皆さん、今年1年間、大変御苦労様でございました。

私が、昨年5月に市長に就任し、合併後の「新生・高松市」の市政をお預かりして、早や1年7か月余りが経過いたしました。

この間、市民の皆様とのお約束としてお示したマニフェストの、「高松・まちづくり」、「高松・人づくり」、「高松・行政改革」という3つの柱の下に掲げた50の項目の施策の実現に向け、全力を傾注してきたところでありますが、本年末において、この50の項目のすべてに、着手することができ、また一部は実現することができましたことを、職員の皆さんに、まずもって感謝申しあげる次第でございます。

さて、今年一年を振り返りますと、北京オリンピックにおける北島康介選手の2冠達成や、女子ソフトボールチームの悲願の初優勝を始め、我が国の科学者4人によるノーベル賞同時受賞、更には、シアトル・マリナーズ、イチロー選手の大リーグタイ記録となる8年連続200本安打達成など、世界の檜舞台で活躍する日本人の明るい話題が、私たちを勇気付け、夢と希望を与えてくれました。その一方で、多数の尊い人命が奪われた中国・四川省での大地震を始め、ミャンマーを襲った大型サイクロン、岩手・宮城内陸地震の発生など、大規模な自然災害が、国内外で猛威を振るった年でもあり、東京・秋葉原における無差別殺傷事件など凶悪な事件も起こりました。

加えて、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安の深刻化、食品の産地偽装や中国製冷凍ギョーザへの薬物混入など、食の安全・安心への信頼を根底から揺るがす事件の頻発、更には、厚生年金記録の組織的な改ざんなど、今後の我が国の在り方を問う、誠に憂慮すべき問題が、次々に顕在化した年でもございました。

このような中、本市におきましては、本年4月、平成27年度までの市政運営の基本方針となる「第5次高松市総合計画」に基づく新たなまちづくりをスタートさせました。

この計画では、目指すべき都市像を「文化の風かおり 光かがやく 瀬戸の都・高松」と定め、「心豊かな人と文化を育むまち」「人と環境にやさしい安全で住みよいまち」「健やかにいきいきと暮らせるまち」「人がにぎわい活力あふれるまち」「道州制時代に中枢拠点性を担えるまち」「分権型社会にふさわしいまち」の6つのまちづくりの目標を掲げる中で、文化があふれ、人・まち共に活力に満ちた、光輝くまちづくりに取り組んでいるところでございます。

このうち、まず、1つ目の「心豊かな人と文化を育むまち」の目標達成に向け、本市では初

めての小中一貫教育校となる高松第一学園（愛称）ならびに新設統合第二小学校（仮称）の建設工事の着工や、県内でも最大級の規模を誇る朝日新町学校給食センターの竣工、また、菊池寛の生誕120年・没後60年記念事業や、高松市美術館開館20周年記念特別展の開催など、学校教育の充実や文化芸術活動の推進に努めました。

次に、「人と環境にやさしい安全で住みよいまち」では、近年の地球規模で進む地球温暖化への対策として、温暖、少雨という本市の地域特性を生かし、二酸化炭素を排出しないクリーンなエネルギーである、太陽光を利用した施策・事業を推進したほか、「第1回カーフリーデー高松」の開催や、高松地区における自転車を利用した都市づくり計画をまとめるなど、過度に自動車に依存しない、環境に配慮した本市の目指すべき交通体系に向け取組みを進めるとともに、四国の自治体としては初めて実施するレジ袋等削減の具体的取組みなど、人と環境にやさしいまちづくりを進めてまいりました。

また、本年は、平成19年に引き続き、渇水に見舞われ、8月末には、早明浦ダムの貯水量がゼロとなり、それが20日間も続くという異常事態となりました。幸い発電用水の生活用水への転用が図られるとともに、市民の皆様の御理解と御協力により、何とか断水という事態は避けられましたものの、例年、渇水に悩まされており、改めて抜本的な解決策の必要性を痛感したところであります。

このようなことから、より一層の節水啓発に取り組む中で、本市の水をめぐる各種施策の連携・調整を図るため、新たに「高松水環境会議」を設置したほか、「たかまつ水環境シンポジウム2008」を開催するなど、水を大切にするまちづくりを推進するとともに、本市南部地域の新たな消防防災拠点となる新南消防署の着工など、安全で安心して暮らせる環境整備に努めました。

次に、3つ目の「健やかにいきいきと暮らせるまち」を目指し、保育所待機児童数の解消に努めるとともに、子育て支援総合情報発信事業などにより、子どもが健やかに生まれ育つ環境づくりを進めたほか、がん検診受診率の向上に向け、個別検診の受診券を対象の全市民に送付するなど、一人一人が健やかに暮らせる環境づくりを推進しました。

次に、4つ目の「人がにぎわい活力あふれるまち」では、観光振興に携わる企業等から、本市の集客に資する事業を公募する「高松観光プロモーション事業」や海外版インターネット広告「アート・ハブ・シティー高松」の掲載など、戦略的な情報発信により本市をPRし、地域性豊かな特色ある観光資源の創出を図るとともに、フランス共和国トゥール市との姉妹都市提携20周年記念式典や、本市とゆかりのある都市の物産を集めた「観光と物産展」の実施など、国内外の交流活動の推進にも努めました。

また、5つ目の「道州制時代に中枢拠点性を担えるまち」では、中心市街地の活性化等につ

いて意見交換し、まちなか再生に取り組む「まちなか元気サミット2008 地域振興フォーラム in 高松」を開催したほか、集約拠点への都市機能の集積によるコンパクトな都市構造、人と環境にやさしい公共交通を基軸とした、新たな「高松市都市計画マスタープラン」を策定し、多核連携型コンパクト・エコシティを、本市の目指すべき将来都市構造としてお示したところです。

最後に、6つ目の目標「分権型社会にふさわしいまち」を目指し、これまで設立促進に向け取り組んできた地域コミュニティ協議会が全市域で展開されるなど、コミュニティを軸としたまちづくりに向け、着実に前進したほか、住民自治の基本理念や自治体運営の基本原則などを定める、まちづくりの最高規範としての自治基本条例の制定に向け取り組むなど、市民主体の行政運営を推進してきたところです。

また、地域経済活性化や個性豊かな地域社会の形成などの行政課題に迅速かつ的確に対応できるよう、香川大学と、多分野・多面的な連携を図る包括協定を締結いたしました。

以上のような多くの施策・事業について、厳しい行財政環境の中ではありますが、計画的、効果的に推進することができましたのも、職員皆さんの日ごろのたゆみない努力のたまものであり、本市が目指す「文化の風かおり 光かがやく 瀬戸の都・高松」の実現に向け、着実な一歩が踏み出せたものと存じます。

迎える新年は、総合計画に基づくまちづくりを本格的に始動させ、着実な推進を図る、極めて重要な年となります。市民の皆様はもとより、NPOや企業など、多様な主体とのパートナーシップの下、更に積極的・効果的に諸施策を展開してまいりたいと存じます。

取り分け、地方から大都市圏への人口流出を食い止める圏域を設定する、いわば人口や文化のダムの機能を果たす「定住自立圏構想」の先行実施団体として、本市と土庄町、小豆島町、三木町、直島町、綾川町の近隣5町を一つの圏域とする「瀬戸・高松広域定住自立圏構想（仮称）」の実現に努め、お互いの市町が連携協力する中で、役割を分担しながら、本市ならびに圏域全体の活性化を図ってまいりたいと存じております。

さらには、近年、私ども地方自治体にとりましても、喫緊の課題となっております地球温暖化への対応としての太陽光を利用した施策・事業の更なる推進、また、過度に自動車に依存しない、徒歩や自転車と公共交通機関が連携したまちづくりを進めてまいりたいと存じます。

今、我々地方自治体には、「地方分権改革」の大きな波が押し寄せております。「地方が主役」となる分権型社会において、地域力を高めながら、持続可能な高松市を築いていくためには、職員皆さんの熱意と英知が不可欠であります。皆さんには、地域社会を支えるまちづくりの担い手の一人として、常に市民の立場に立って物事を考えるとともに、刻々と変化する社会情勢などを迅速にキャッチし、新たな発想と、的確な判断による取組みを、今後とも進めていただ

きたいと思います。

明日からは、年末年始の休暇に入ります。ひとときの休暇ではありますが、一つの区切りをつけていただき、どうか、ゆっくりとくつろがれ、御家族の皆様とともに、健やかで良いお正月を迎えていただきたいと思います。

なお、業務の関係から、年末年始に勤務される職員の皆様方におかれましては、大変御苦勞でございますが、どうかよろしく願いいたします。

来るべき平成21年が、高松市にとって、また皆様方、御家族にとって、幸せ多い年となりますことを願って、仕事納めの私のごあいさつといたします。